

今回のような当事者の家族の思いを直接聞ける会が各地で開催されていけば、当事者やその家族への理解がより深まり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる共生社会の実現の一歩になるのではと思います。

はまゆう家族会
副会長 松鶴順一郎



第10回 はまゆう講演の集いを開催

今回は、シンポジウム形式で行い、「精神障がいがある人の家族の思い」をテーマに、西南女学院大学保健福祉学部教授の今村浩司先生をコーディネーターに迎え、はまゆう家族会会員3名による「親なきあとを考える」「精神科医療に思うこと」「当事者の生活困窮の現状を考える」「親あるうちにやることを考える」という4つのテーマで、それぞれ発表しました。発表者が話す中で、当時のつらさや苦しさが改めて鮮明に思い出されるのでしよう、思わず声を詰まらせることが度々あり、聴衆の方々も思わずもらい泣きをされる場面もありました。家族会関係者以外、このようないい当事者の家族の思いを聞く機会は、なかなかありませんので、今回参加された方々の心に何かしら残ったのではないかでしょうか。

今回ののような当事者の家族の思いを直接聞ける会が各地で開催されていけば、当事者やその家族への理解がより深まり、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる共生社会の実現の一歩になるのではと思います。

ンストップ型（ハローワークと県市町村が連携して行う支援事業）相談サービス」の紹介、チームでアプローチすることの重要性、誰一人取り残さないための「協働型・創造型の取組」についての話を事例を通してわかりやすく説明されました。話の中で「価値観のチャンネルを合わせる」という一言は、大変大事なことだと痛感しました。

ここで「みずまき社会福祉法人ネットワーク」について説明させていた
だきます。
(下段へ続く)



谷口仁史氏の講演会に参加して

R5年度相談電話集計表



心の相談電話

月	夜間・休日	平日 3 H
R5. 4月	8 0 4	9 2
5月	7 8 5	7 2
6月	7 5 9	6 8
7月	7 5 9	6 9
8月	7 5 0	6 0
9月	7 2 9	6 3
10月	7 3 2	6 1
11月	7 5 2	7 3
12月	7 6 5	6 6
R6. 1月	7 9 0	7 6
2月	7 5 0	7 3
合 計	8, 3 7 5	7 7 3

今年度も多くのご家族、当事者の方からお電話を頂きました。相談電話から家族による家族学習会や家族会に繋がった方もいます。一人で抱えずお電話ください。

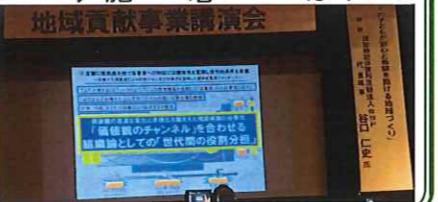
【相談時間】13時～16時

- ・月曜日 090 (1366) 7498
 - ・火曜日 080 (3986) 1980
 - ・水曜日 080 (1729) 1950
 - ・木曜日 080 (1729) 1950
 - ・金曜日 080 (1729) 1955
 - ・土・日曜日・祝日 **9時～16時**
080 (1729) 1955

- ・夜間（17時～翌朝8時）
080（1729）1950

※令和6年4月からのチラシを付録にて同封しております

当団体は、水巻町内にある社会福祉法人の団体で構成され、社会福祉協議会を中心にして社会貢献事業を行っています。講演会のほか「ふくし総合相談」「ふくし出前講座」「ヤングケアラーキャンペーン」「子ども笑顔プロジェクト（フードドライブ）」「災害停電時スマートフォン等充電ステーション」「地域の安心パトロール」等の事業を実施しています。これからも地域とのつながりを大切にしてまいります。



修会が開催されました。

まず、アメリカと日本のひきこもりの現状（米..ひきこもりいない）、支援に至るまでに長い時間がかかっている実態を示し、家族が最初の支援者として当事者を支えるための手立てや心構えを学びました。

加藤先生は、ひきこもりが始まってから支援につながるまでの期間は平均で4・4年というデータを紹介し、周囲の偏見や知識不足などが背景にあると指摘。統合失調症やうつ病などの精神疾患が原因になることがあり、診断されない場合でも何らかの心の苦しみを持つている可能性もある為、できるだけ早く病院を受診するよう呼びかけました。

家族に向けては、**あいさつの大切さ**を強調した。

「まずはあいさつ。次に、声かけの種類を増やすなど具体的な階段を作り、一段ずつ登っていくことが大切」と回復を急がないようアドバイスし、「家族からは『どうやつたら外に出れるのか、どうしたら働けるのか』などと聞かれるが、そこは最後のステップ」と話されました。

また、話す際は**「わたし」を主語にして話したり、例..（私は）こう思うんだけど・・・。「みんな」「ふつう」という言葉を極力使わない。**とコミュニケーションのポイントを学びました。

当事者と向き合う家族の心構えについては、「家族が元気を取り戻すことが支援の第一歩。心にゆとりを持って本人と接してほしい」と述べられました。今年一番の寒気の中、会場いっぱいに参加者が集い、講演後には話を聞いて良かったとのお声が皆様からありました。



生を講師に迎え「精神を患うつてどんな事？～もしあなたの「家族が精神を患つたらどうしますか？」と題してオンラインで講演されました。

冒頭、母の病気で自身も心を病み、当事者・家族の立場を経験した旨、これらの事を公表するに至った経緯を話されました。その中で「語ることには回復に不可欠です」と話され、医師として「患者・家族」の思いを医師に、医師の気持ちを「患者・家族」に伝える取り組みに力を入れていると語られました。また、「人は何歳からでも進化できる」と当事者・家族の為に体現されている先生。

現在は、精神科の入院患者への措置が適切かを審査する「精神医療審査会」の委員としても活動され、当事者や家族の委員の常設を目指されていることも紹介されました。

以前夏苅先生が「人が回復するのに締め切りはありません。患者家族が結婚し、その子どもが幸せになることを積み重ねていけば、社会の偏見や認識も変わっていくと思います。心の病は『あなたの人生のどこかで出会う病』です。自分はならなくても、身内や子どもがなるかもしません。そういう目で、精神疾患を理解してもらいたいです」と話されていました。高校教育でも始まりましたが、正しく病気について学び、理解を示して下さる方が一人でも増えることを拙に願いたいと思い



家族職員研修会／家族が元気で

精神保健福祉家族研修会

能登半島地震」～義援金の受付

第2次受付4月1日から6月30日

みなさまのご支援ご協力をお願い致します。

○義援金口座
【ゆうちょから入金】 記号: 10160
番号: 02155921

【他行から入金】ゆうちょ銀行
【店名】〇一八（ゼロイチハチ）
【店番】018 【預金種目】普通預金
【口座番号】0215592
【名義】公益社団法人全国精神保健福祉会連合会
　　(ヤ)ゼンコクセイシンホンフクシカインヨウカイ



実際現地へ行かれた情報を少し掲載します。
一階部分が崩れた家が軒並み散見。
土砂崩れで家が埋もり屋根も何も見えない地帯。
焼け野原に花が手向けられている。
被災を受けた方々はその状況の中で事業を再開していました。支援法では救えない運営状況を目の当たりにしました。 グループホームにて 村上大作